

保護者と教員評価比較考察

教員の傾向

○今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があったため、「十分あてはまる」よりも「ほぼあてはまる」と評価する割合が多かったです。

- どの項目においても言える傾向となっています。
- 「交流及び共同学習の取組」を見てみると、保護者の「十分あてはまる」は、60%~80%、教員は、20%~45%。
- 「進路実現を目指した進路指導の充実」においても保護者の「十分あてはまる」は、70%~90%、教員は、30%~47%。
- 教員の自己評価が低く出る背景として、コロナ禍において思うように教育活動が展開できなかったことやもっと工夫をして対応できたのではないかと課題を意識しているためであると考えられます。

○情報モラル・いじめ・性に関する指導における課題

- 教員グラフから「十分あてはまる」の数値を見てみると学年が上がるごとに数値が高くなっている。高等部は、社会参加への出口が近いいため意識が高いと言えます。
- 情報モラル教育においては、情報社会の急激な変化に対応できるように今後の指導を充実する必要に迫られていると考えられます。



必要と迫られている小学部から段階的な情報モラル教育の充実や性に関する指導の教職員の研修の充実を図ってまいります。

さらには、保護者の方の交流及び共同学習への期待値の高さから、本校の児童生徒の理解啓発とともに更なる発信や深め合える活動計画を推進してまいります。